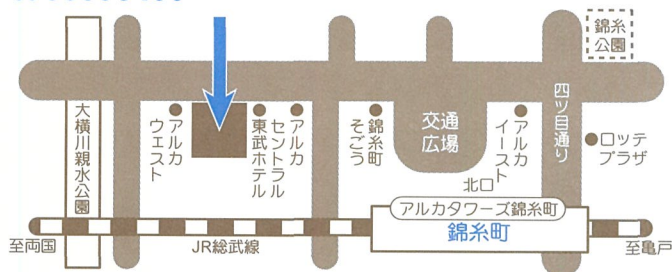


# 日本電子音楽協会 第7回 定期演奏会

2000年4月13日(木)  
18時30分開場・19時開演

すみだトリフォニー〈小ホール〉  
03-5608-5400



入場料:3,500円

主催:日本電子音楽協会

岡崎光治

Phantasmagoria-II  
電子音のための

桃井聖司

Motet - XX

Vocal:伊東恵里

中川善裕

"TRIADÉ" for Oboe and Computer

オーボエ:岡本恵子

ロドリゴ・セグーニ・セケラ

《芸大》  
(招待作品)

岩下哲也

Memories in 1999

ソプラノ:太田朋子

田村文生

リーダークライス

クラリネット:田淵恵実

問い合わせ先:日本電子音楽協会(岩崎) 042-923-6450

日本電子音楽協会

第7回  
定期演奏会

2000年4月13日〈木〉  
18時30分開場・19時開演

すみだトリフォニー〈小ホール〉

主催：日本電子音楽協会

助成：財団法人ローランド芸術文化振興財団



○プログラム○

岡崎光治

Phantasmagoria-II  
電子音のための

桃井聖司

Motet - XX

Vocal: 伊東恵里

中川善裕

"TRIAD" for Oboe and Computer

オーボエ: 成田恵子

休憩

ロドリゴ・  
セグーニ・  
セケラ

《芸大》  
(招待作品)

岩下哲也

Memories in 1999

ソプラノ: 太田朋子

田村文生

リーダークライス

クラリネット: 田淵萌

音響: サウンドクラフト  
Design by Mayumi MORI

■Phantasmagoria-II 電子音のための

◇プログラムノート

コンピュータによりコントロールされる二つのトーンジェネレータは、それぞれの音に互いに干渉することが出来るように設定されている。干渉の度合いにより、微妙に音色を変えてゆく音の一つ一つを素材とした作品である。

◆岡崎光治

日本作曲家協議会、グループ・トライオンの会員。日本電子音楽協会理事。仙台電子音楽協会代表。仙台オペラ協会総監督。仙台放送合唱団音楽監督。

<主要作品>

混声合唱組曲「幻の祭」

オペラ「鳴砂」

電子音による「碑の音」I～IX

オーケストラのための「緋曲」I、II

吹奏楽と混声合唱、2台のシンセサイザーのための「サン・ファン・パウテスタ号賛歌」

電子音とピアノによる「緋婚」I、II

ミュージカル「炎の迷宮-アザマロの乱」

ソプラノ、バリトン、混声合唱、オーケストラのためのカンタータ「魂の坑道は果てしなく」など。

岡崎光治



## ■ Motet - XX

### ◇プログラムノート

モテットは中世から古典派まで盛んに作られた宗教曲で、無伴奏合唱が多いが、時代により伴奏付や独唱のものもある。今回の曲では、独唱と電子音という編成の中で、電子音楽的に独唱を多声に聴かせようと試みた。また、歌い手とコンピュータの掛け合いによる即興演奏も行なわれる。

テキスト部分では日本語、英語、ヘブライ語、造語が交錯し、自作の詩や聖書の言葉などが歌唱及び朗読される。また、音楽的素材あるいは音響的素材として、先人たちの作曲したモテットを引用した。

XX(ダブル・エックス)の“X”には、代数、羅数字、extension(拡張)などの意味をこめた。あえて多くは語らないが、曲中からその精神を感じとっていただければと思う。

#### <使用機材&ソフトウェア>

Apple	Power Macintosh G4/400、Power Macintosh 8100/80AV
Digidesign	Sample Cell II、Audio Media II、Digi001、Pro Tools LE
Emagic	Audiowerk2、Logic Audio Platinum
BitHeadz	Unity DS-1
AKAI	CD3000i
Roland	VP-9000、SP-808Pro、JV-2080、VM-3100Pro

### ◆桃井聖司

愛知県立芸術大学で作曲を専攻。同学中退後、「ヘラクレスの栄光Ⅲ」「Dear England」をはじめとする数多くのゲームやマルチメディアタイトル、ビデオ、CMなどのサウンドトラックを制作。

1997年、Ensemble Eurhythmicsの委嘱によりリトミックのための楽曲「Three Elements」を作曲。1999年には新たな試みとして、リトミックと電子音楽の融合を図った「…楽園の愉悦」を発表する。

その一方で、各種イベント、講習会においてコンピュータ・ミュージックやシンセサイザーに関するセミナー、デモンストレーションなども行なっている。

### ◆伊東恵里(ボーカル)

武蔵野音楽大学声楽科卒業。モーツァルト「レクイエム」ソリスト、大野和士指揮による「ヘンゼルとグレーテル」などの舞台を経て、ミュージカルに転向。劇団四季に一年間在籍し、その後現在に至るまで、数多くのミュージカルに出演。1992年4月からは帝国劇場「ミス・サイゴン」のキム役として登場。美しい歌声と安定した歌唱力で好評を得る。

NHK「夢コレクション」に準レギュラー出演。また「美女と野獣」ヒロイン“ベル”役などディズニー映像作品の日本語版吹替を担当。その他、CMソング、TV番組主題歌の録音など、幅広い活動を行なっている。

桃井聖司

## ■ "TRIADÉ" for Oboe and Computer

### ◇プログラムノート

この曲は、生のオーボエと変調されたオーボエの音、サンプリングされたオーボエの音、という3種(TRIADÉ)の音を、コンピュータによるリアルタイム処理によって具体化することを前提に計画された。それぞれの音は主に、冒頭の長い持続音による13個の音列から導き出される2×13個のデータを基に、控えめなランダムネスを加えつつ生成、変調される。

全体は9つの部分からなり、「テンポ変化を伴う短いパッセージの部分」によって区切られた「持続音の部分」と「装飾的を伴う短音からなる部分」の反復から成り立っている。各部分においては、Max(IRCAMによって開発されたオブジェクト指向プログラミング言語)によって作成されたパッチがそれぞれ対応する処理を行うことになる。

この曲は1998年2月に「Compo Museum 第1回演奏会」において初演され、今回が再演となる。

### ◆中川善裕

北海道札幌出身。

1984年北海道教育大学札幌校卒業。1990年東京芸術大学作曲科卒業。

1993年東京芸術大学大学院作曲専攻卒業。これまで作曲を木村雅信、南弘明、故郷敏郎、林光の各氏に師事。電子音楽法を南弘明氏に師事した。

また、京都フランスアカデミーにてジルベール・アミ氏に作曲法、管弦楽法を、秋吉台国際20世紀音楽セミナーにおいてブライアン・ファニホウ氏に作曲法の指導を受けた。現在、洗足学園大学音楽工学研究所助手。

1989年、「NUCUREUS For Orchestra」で長谷川良夫賞を受賞。同年、第58回日本音楽コンクール作曲部門(室内楽)に「Pagoda For 2 Violins, Flute, Oboe and 2 Percussion Players」が入選した。

### ◆成田恵子(オーボエ)

東京芸術大学付属音楽高校を経て、1990年同大学卒業。第4回日本管打楽器コンクールオーボエ部門入選。東京国際音楽コンクール室内楽部門に木管三重奏で入選。1992年シュトゥットガルト音楽大学卒業。1993年～1995年東京交響楽団に在籍。オーボエを故郷逸郎、北島章、小島葉子、小畑善昭、インゴ・ゴリツキーの各氏に師事。

中川善裕



## ■《芸大》（招待作品）

### ◇プログラムノート

東京芸術大学に対しては特別な愛情があります。

そこは、まるで音楽の中に住んでいるような感覚を覚えます。

廊下を歩けば、誰かがピアノコンチエルトの練習をする音が聴こえ、同時にとなりの部屋からは雅楽が聴こえてきます。

その環境は私にとって喜ばしいことなのですが、またしかし作曲家として自分自身の音の世界を生み出すために静寂が必要な時があることも事実です。

私はそのために遅くまで残っていたことも多くありました。

この作品はそれらの日々の中で描かれた風景音楽です。

芸大を楽器として、芸大を音楽作品として…

### ◆ロドリゴ・セグニ・セケラ

1968年カラカス生まれ。

ヴェネズエラ中央大学と国立音楽学院で音楽学と作曲を学ぶ。

スペイン政府による奨学金を受け、ポンベウ・ファブラ大学大学院でコンピュータ音楽を学ぶ。

フランスのブルシュにある現代音楽の研究所やスタンフォード大学の音響と音楽のコンピュータ研究所でレジデンスを与えられる。

文部省の奨学生として東京芸術大学大学院で作曲を学ぶ。

大学や研究所以外の時間は、作曲するだけでなく、世界中の海辺で水深30mあたりをさまよっている。

ロドリゴ・  
セグニ・  
セケラ

## ■Memories in 1999

### ◇プログラムノート

1999年は、マスコミや世界が騒いだ以外に、私めの周辺でも出来事が多く、いろいろと考えさせられました。こちらの世界からいなくなった人達も割に身近に多い年で、そのあたりを契機に、作品を以て記憶・記録しておこうと考えたりもしたのです。

初演は、石桁真禮生先生／山田泉氏の追悼を兼ねた「環」定期演奏会(1999.12.1)。電子音パートを修正しての再演です。4チャンネルでの音の移動感がうまくいくといいのですが。(できれば、客席中央あたりにお座りください！)

太田朋子さんは、高度なソルフェージュ能力に支えられて、現代物に、またステージでは、シリアスなもの、ユーモラスなもの、と多彩な能力があって、得難い人材です。在仏が長く、帰国して半年。これからの活動も大いに期待されます。

### ◆岩下哲也

1952年生。東京芸術大学作曲科卒業。コンピュータ、シンセサイザなどを使った作品の制作、および教育活動を中心にしながら、音響(録音、PA)、映像などに関わっている。

<現在>

東京芸術大学 昭和音楽大学 講師

パーカッショングループ72 メンバー

日本電子音楽協会、作曲家の会「環」会員

日本オーディオ協会、日本音響家協会、全日写連 会員

(株)APPOサウンドプロジェクト 常務取締役

第二級陸上特殊無線技師

<著書>

シンセサイザーテクニック (専門教育出版 共著)

電子楽器と音楽制作(専門教育出版 共著)

技術者のためのスコアリーディング(専門教育出版 共著)

ザナドゥ教育ソフトウェア(コード理論書 翻訳) Roland

### ◆太田朋子(ソプラノ)

東京生まれ。武蔵野音楽大学にて、故中村邦子氏に師事。Ecole Normale(仏)に於て、オペラ科ディプロム及び同科高等ディプロムを取得。カミーユ・モラーヌ:エディット・セリグ:ドゥニーズ・デュプレクス、各氏に師事。

1989~1999パリを中心に活躍。1992年、シントラ音楽祭(ポルトガル)をはじめ、オペラ"人間の声"をパリにて4シーズンのロングラン。プレザン紙に絶賛される。

1999年帰国。川崎市民オペラ会員。

フランス婦人音楽家連盟コンクール2位。レオポルド・ベランコンクール1位。2000年夏、F.プーランクの作品による1枚目のCDを発表。

岩下哲也



## ■リーダークライス

### ◇プログラムノート

この作品は、演奏された音が30秒後に再び鳴らされ、更に30秒後に再現されるという形式を持った、30秒毎の音楽の反復と新たに加わる音との絡み合いによって構成されており、例えば曲の3分30秒の時点ではリアルタイムで鳴らされる音及び0'30"、1'00"、1'30"、2'00"、2'30"、3'00"の音との「七重奏」(最終的には23重奏まで)というように音楽が集積されてゆきます。

仮に、音楽の形式又は音の構造が認識される時に、部分毎の関連付けの繰り返しを重ねながら最後に全体としての構造が明らかになるとすれば、それは曲頭で鳴らされた音が既に過去のものになってしまっている以上、聴衆個々の記憶の中での作業であり、その音がどう鳴っていたか、若しくは部分部分がどう聞こえたかによって、作品全体としての印象は全く違います。この作品ではその記憶されるべき時間を限定し、過去が繰り返されるという構造(形式的)的要因から、記憶されたものがその存在意義を失いかける局面が生れる可能性があります。しかしこの場合に於いても、現在と過去の区別は明確にされている(具体的には、過去と現在の音との間の音色や定位の変化など)という点、また作品に最初と最後が有るという点で、何ら普通の作品の構造認識と変わるところが無いとも言えますが、疑似的「過去」をより具体的に呈示している分だけ聴衆に対して記憶しないことを強制させることとなるかもしれません。

もともと、第2回演奏会で初演したこの作品、今回は4チャンネル再生での初演になります。23人のクラリネット奏者が聴衆を取り囲んで演奏するという、本来の演奏形態に近くなることで、タイトルである“Liederkreis”(歌の環)の二重の意味が伝わることを願います。

### ◆田村文生

東京芸術大学大学院およびGuildhall School of Music and Drama, London大学院修了。

1995年から97年まで文化庁芸術家在外研修員としてイギリスにて研修。これまでに作品がアジア音楽祭、東京の夏音楽祭、Spitalfields音楽祭等で演奏されたほか、Vallentino Bucchi国際作曲コンクール、国立劇場作曲コンクールなどに入選・入賞。日本作曲家協議会、日本電子音楽協会、作曲家グループ TEMPUS NOVUM、現代音楽アンサンブル Ensemble Contemporary α、邦楽器アンサンブル日本音楽集団の各会員として演奏会の企画制作に携わっている。

### ◆田渕萌(クラリネット)

1979年生まれ、神戸市出身。'99年第68回日本音楽コンクール(毎日新聞社・NHK共催)クラリネット部門第3位入賞。第7回東京セレノ・クラリネットオーケストラ演奏会にてロッシーニ作曲<Introduction, theme and variation>にソリストとして出演。

これまでにクラリネットを藤井一男、村井祐児の各氏に、室内楽を岡本正之氏に師事。現在、東京芸術大学音楽学部器楽科3年に在学中。

田村文生